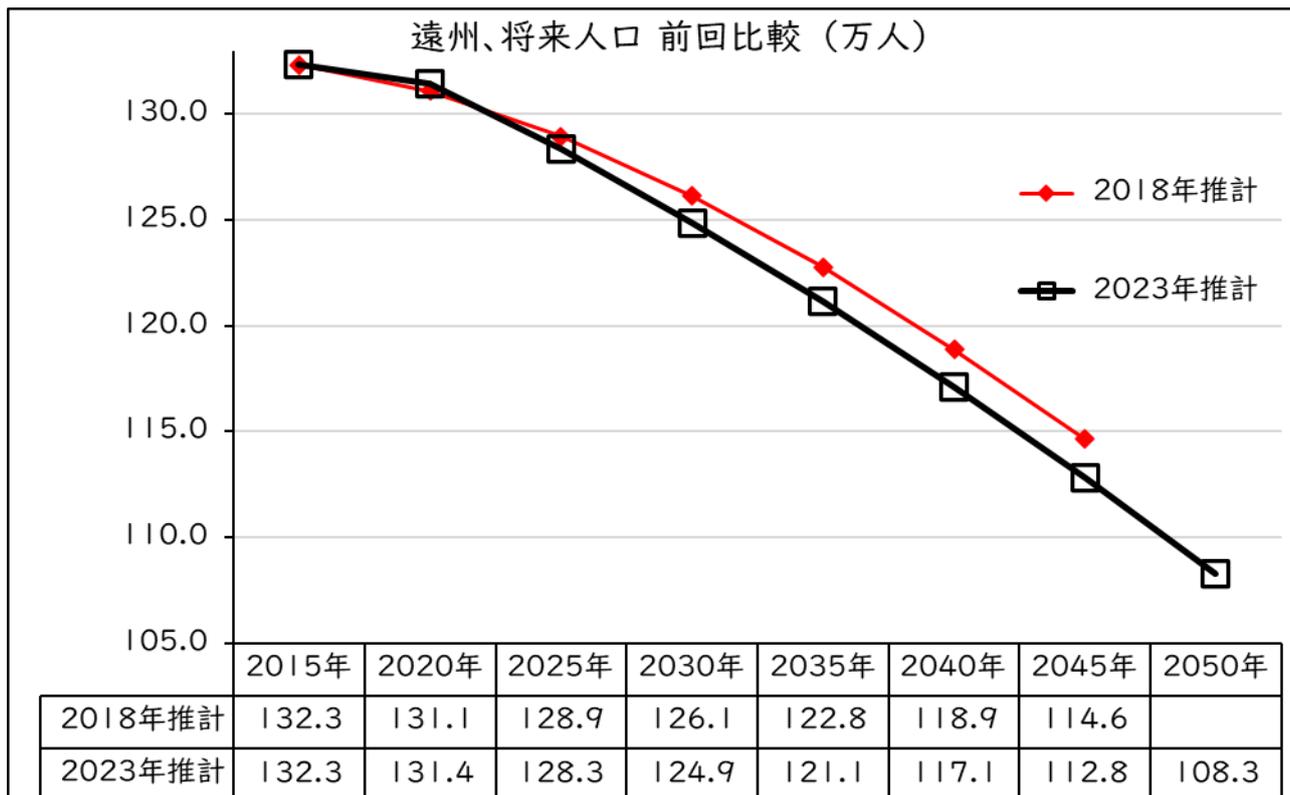


遠州地域の将来人口

2020年の国勢調査を基にした将来推計人口が昨年末に国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)から公表されたことから、今回、遠州地域および浜松市の将来人口についてまとめることとします。

2023年3月2日 神谷 裕

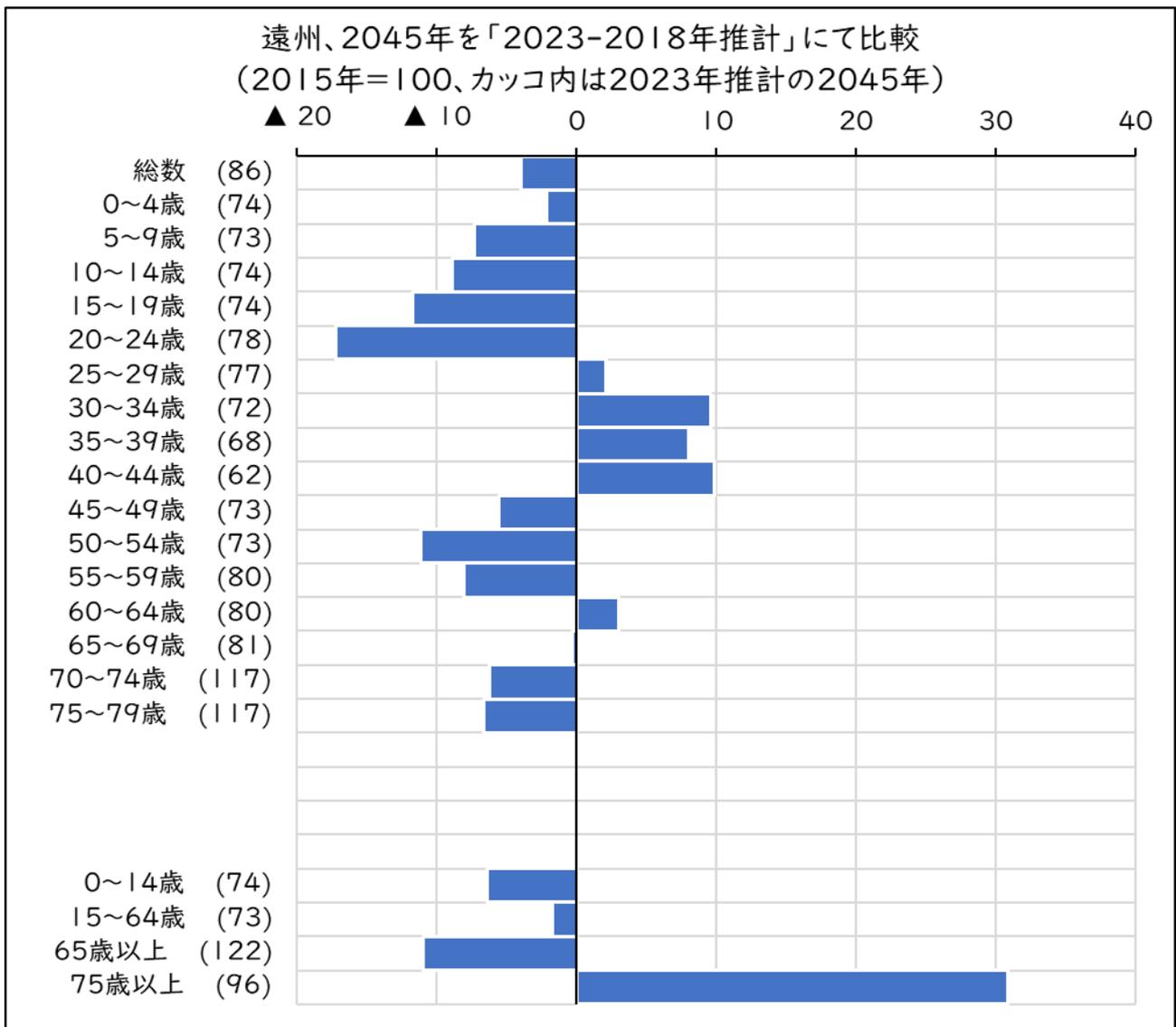
◆I 遠州地域の将来推計人口



遠州地域における2015年の人口は132.3万人でしたが、2020年は2015年比9千人減の131.4万人となりました。2020年時点を2018年推計と2023年推計とで比較した場合、2018年推計よりも減少が緩やかとなりました。一方で2045年時点を比較すると2018年推計よりも1.8万人の減少が拡大しました。

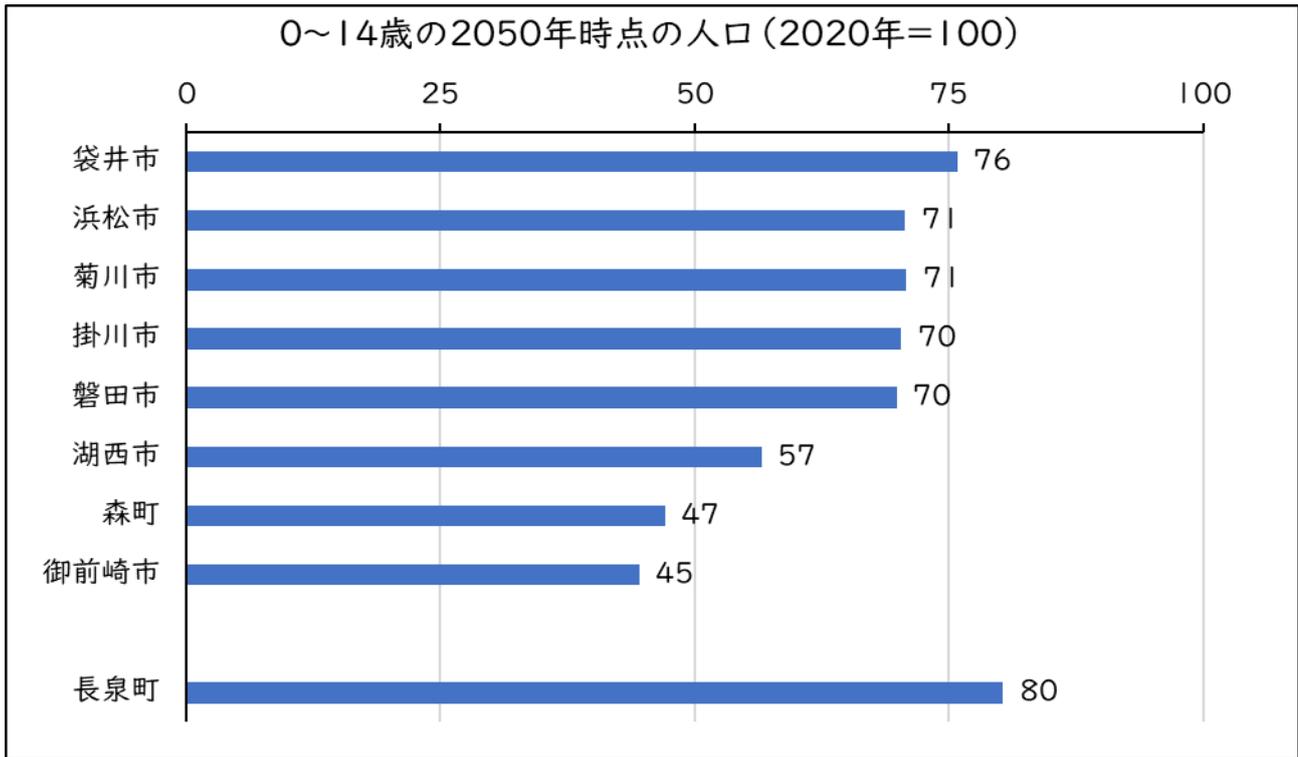
人口予測の主因となる出生数と社会増減の仮定値をみると、いずれも2023年推計の仮定値が悪化したためと考えられます。(以下、2018年推計を前回推計、2023年推計を今回推計と表記)

◆2 年齢階級別の比較



今回推計で人口減少が拡大する推計結果となりましたが、どの年代で減少が拡大するのか、5歳階級別の比較を数値化しました。2015年を100とし、2045年にどれだけ落ち込むのか、今回推計から前回推計を差し引いたのがこのグラフです(グラフ内のタテ軸のカッコ内は今回推計の2045年)。若い世代をみると、0~24歳にかけ、減少が拡大することとなりました。25~44歳については増加に見えるグラフとなっていますが、これは増加ではなく減少が緩和したことを示しています。一番下の75歳以上については前回推計よりも増加し、今回推計では人口増加に転じる推計結果となりました。

◆3 地域別



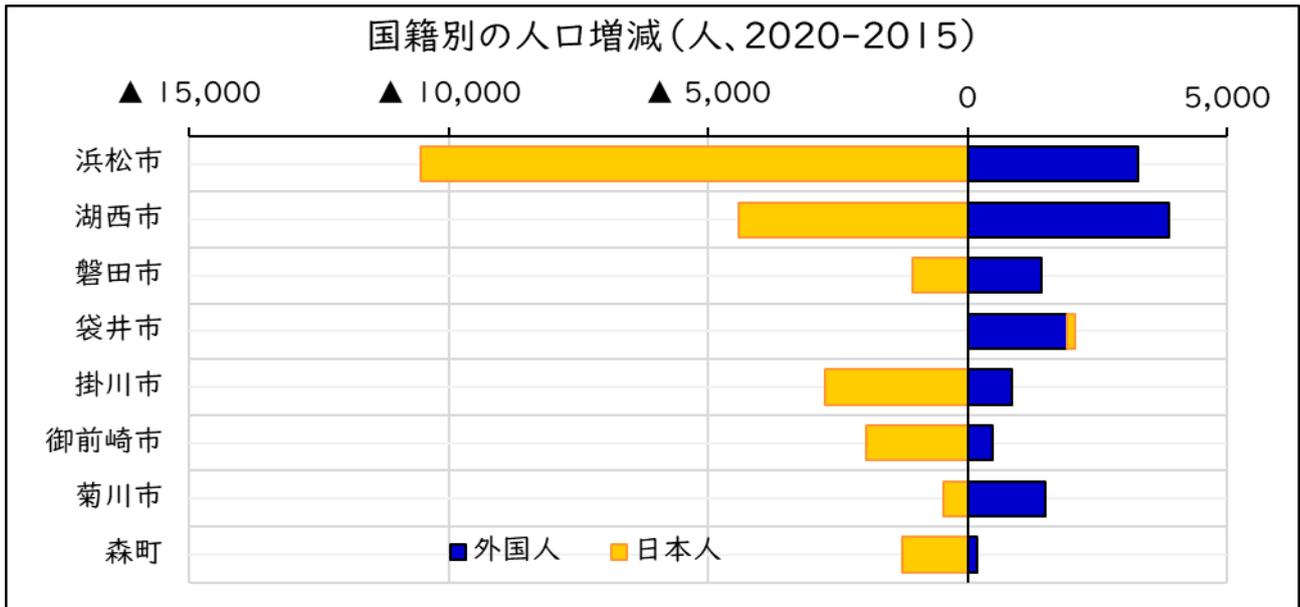
0~14歳の2050年時点の人口を地域別に指数化したのが上のグラフです。遠州地域では、袋井市が76のもっとも減少が低い市町です。人口が最も多い浜松市は71であり、御前崎市は45となっています。御前崎市については原発停止による影響、森町や湖西市では若者の転出が激しいため、と推察されます。静岡県で人口増加の先進地の長泉町でも84と、出生数の減少が避けられない推計結果となりました。

◆4 移動率

		2018年推計		2023年推計			
純移動率		2015年	2015年	2020年	2020年	2025年	2045年
女性		→	→	→	→	→	→
		2020年	2020年	2025年	2025年	2030年	2050年
浜松市	10~14歳→15~19歳	-6%	1%	-5%	1%	2%	3%
	15~19歳→20~24歳	-5%		-5%			
	20~24歳→25~29歳	11%		11%			
磐田市	10~14歳→15~19歳	-6%	-5%	-7%	-2%	-5%	-1%
	15~19歳→20~24歳	-11%		-11%			
	20~24歳→25~29歳	12%		16%			
掛川市	10~14歳→15~19歳	-7%	-17%	-7%	-5%	-7%	-6%
	15~19歳→20~24歳	-19%		-15%			
	20~24歳→25~29歳	9%		17%			
袋井市	10~14歳→15~19歳	-7%	5%	-6%	15%	9%	7%
	15~19歳→20~24歳	-5%		-2%			
	20~24歳→25~29歳	17%		23%			
湖西市	10~14歳→15~19歳	-8%	-10%	-7%	-12%	-16%	-14%
	15~19歳→20~24歳	-10%		-12%			
	20~24歳→25~29歳	9%		7%			
御前崎市	10~14歳→15~19歳	-11%	-41%	-13%	-58%	-25%	-25%
	15~19歳→20~24歳	-27%		-30%			
	20~24歳→25~29歳	-3%		-15%			
菊川市	10~14歳→15~19歳	-6%	-6%	-7%	-1%	-4%	-6%
	15~19歳→20~24歳	-12%		-11%			
	20~24歳→25~29歳	12%		17%			
森町	10~14歳→15~19歳	-8%	-31%	-11%	-70%	-27%	-26%
	15~19歳→20~24歳	-22%		-24%			
	20~24歳→25~29歳	-1%		-35%			

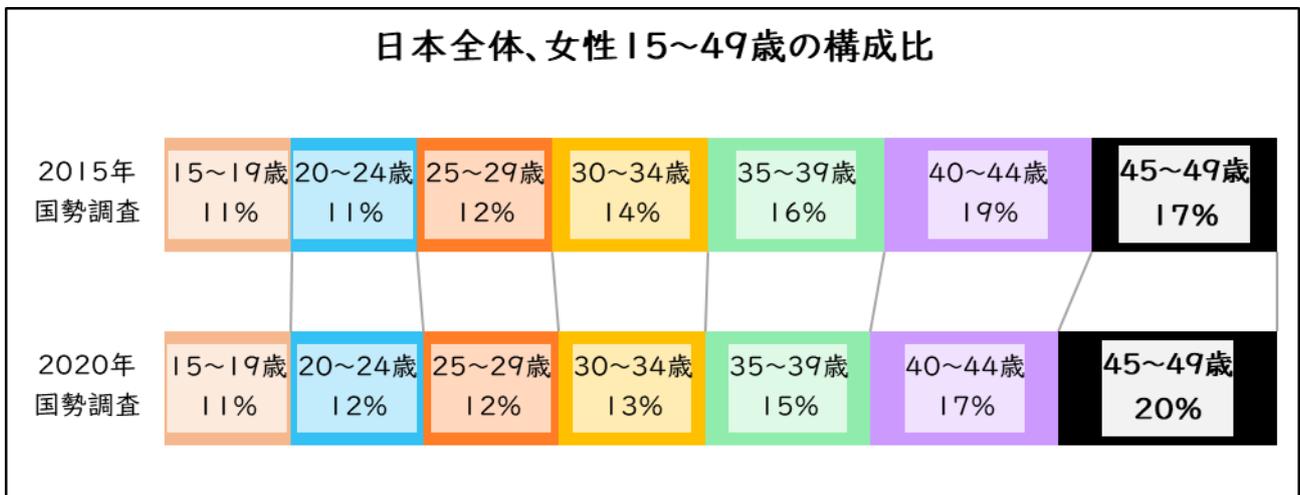
上の表は、人口予測で社会増減を表す移動率を示したものです（正確には純移動率）。浜松市の3つの年齢階級では、一旦は浜松市を離れるが、将来戻ってくるとともに、転入者の一部も浜松に居続ける、というような構図を予想することができます。そして、可視化を簡単にするため、必ずしも正しくありませんが、3つの年齢階級を合算したのが表の右側の数字となっています。この数字をみると、今回推計において、合算した移動率がプラスなのは、浜松市と袋井市で、残りはマイナスとなりました。マイナスの地域は転出超過となっていることを示しています。なかでも、御前崎市と森町の転出超過はかなり大きい数値となっています。ただ、2つの市町をみると、将来の移動率がかなり改善していることが見てとれます。もしかすると、これらの市町の人口予測は的確な予測とはなっていない可能性もあるため、しいては個々の精査も必要でしょう。

◆5 国籍別



今回推計の人口減少において、人口減少を緩やかにしているのが、実は、外国人の増加です。国勢調査をみると、遠州地域のすべての市町で外国人が前回よりも増えました。袋井市のみが日本人も増えていますが、袋井市でも日本人の増加は微々たるものです。日本人のみの人口予測も作成すべきでしょう。

◆6 子ども女性比の変更点



子ども女性比とは、「出生数÷特定の年齢の女性数」で計算される数値で、将来推計人口ではこの子ども女性比を用いて出生数を予測しています。ただし、計算根拠となる特定の年齢の女性数に関して、前回推計では15~49歳だったものが、今回推計で20~44歳へと変更されました。その理由としては除外された年齢層の出生割合がきわめて低いため、地域によっては誤差が大きくなるため、とのことですが、この変更により子ども女性比が今回高まることとなりました。

この変更については私見として正しい認識か定かではありませんが、懸念もあります。除外された45~49歳については、人口減少時代においては常に最も多い年齢層となります。この最も多い年齢層を除外して高くなった子ども女性比を基にした出生数は、もしかしたら実際の出生数よりも多く計算されるのではないかと懸念しています。

◆7 婚姻件数と出生数

	日本全体					浜松市				
	合計特殊 出生率	出生数 (万人)	前年比	婚姻数 万件	前年比	合計特殊 出生率	出生数 人	前年比	婚姻数 件	前年比
2005年	1.26	106		71			7,127		4,683	
2006年	1.32	109	3%	73	2%		7,486	5%	4,822	3%
2007年	1.34	109	0%	72	-2%		7,512	0%	4,678	-3%
2008年	1.37	109	0%	73	1%		7,447	-1%	4,663	0%
2009年	1.37	107	-2%	71	-3%		7,118	-4%	4,766	2%
2010年	1.39	107	0%	70	-1%		7,209	1%	4,532	-5%
2011年	1.39	105	-2%	66	-5%		7,002	-3%	4,192	-8%
2012年	1.41	104	-1%	67	1%	1.56	7,137	2%	4,267	2%
2013年	1.43	103	-1%	66	-1%	1.55	6,982	-2%	4,140	-3%
2014年	1.42	100	-3%	64	-3%	1.51	6,647	-5%	4,070	-2%
2015年	1.45	101	0%	64	-1%	1.57	6,756	2%	4,056	0%
2016年	1.44	98	-3%	62	-2%	1.57	6,558	-3%	3,833	-5%
2017年	1.43	95	-3%	61	-2%	1.53	6,244	-5%	3,789	-1%
2018年	1.42	92	-3%	59	-3%	1.51	6,023	-4%	3,616	-5%
2019年	1.36	87	-6%	60	2%	1.43	5,560	-8%	3,660	1%
2020年	1.33	84	-3%	53	-12%	1.41	5,365	-4%	3,193	-13%
2021年	1.30	81	-3%	50	-5%	1.37	5,122	-5%	3,098	-3%
2022年	1.26	77	-5%	50	1%					
2023年										

2033年	1.43	80	2018年推計
2040年	1.43	74	2018年推計

上の表は、出生数と婚姻数を、日本全体と浜松市にて、時系列化したものです。出生数と婚姻数はどちらの地域も減少傾向です。2017年公表の前回推計では日本全体の出生数が80万人に落ち込むのは、2033年と予測しましたが、現実には2022年に80万人を割り込み、11年もの前倒しとなる出生減となりました。2040年に到来する予定の74万人を割り込むのも、あと数年後となりそうです。

出生数をみると、どちらの地域も2019年に最も大きく減少しています。つまり、出生大幅減はコロナ禍で起きた訳でなく、その前に起きていたことが分かります。

さらに、コロナ禍で婚姻数の減少も進みました。コロナ禍での婚姻数の減少は晩婚化や未婚化を助長させる悪影響も及ぼすこととなりました。下の表は国勢調査を基にした未婚率ですが、前回調査よりも未婚率は上昇しました。コロナ禍による行動の自粛により晩婚化も進んだものと予想されます。

2021年以降のコロナ禍を盛り込んだ次回の人口予測は、もっと悲惨になりそうです。人口減少を念頭に置いた施策に切り替えていくべき時期に來ていると私は考えています。（文中の図表は将来推計人口および国勢調査を参照）

未婚率		20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳
日本人 浜松市						
国勢調査年						
男性	2015年	95%	71%	44%	33%	29%
	2020年	96%	74%	48%	34%	29%
	2020-2015	1%	2%	4%	1%	0%
女性	2015年	90%	56%	29%	19%	16%
	2020年	92%	59%	31%	20%	16%
	2020-2015	2%	3%	3%	1%	0%